

## 令和 6 年度第 2 回松前町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和 7 年 3 月 17 日（月）11 時 00 分～12 時 00 分

2 場 所 松前町役場 3 階 301 会議室

3 出席者 <松 前 町>田中町長（議長）

<教育委員会>足立教育長、渡部教育委員、坪内教育委員、郷田教育委員、  
廣藤教育委員

<事 務 局>大川総務部長、住田教育委員会事務局長、

田中財政課長、金子学校教育課長、三原社会教育課長

中村企画政策室長（進行）、戸井田企画戦略係長（庶務）

4 議 事 松前町教育大綱について

5 議事内容

【中村企画政策室長】

ただいまから令和 6 年度第 2 回松前町総合教育会議を開催いたします。初めに、田中町長が開会の御挨拶を申し上げます。

【田中町長】

こんにちは。皆様には日頃から教育行政に御協力をいただき誠にありがとうございます。また、今日は皆さん各中学校の卒業式の御対応ありがとうございました。近年は色んなアイデアが詰まった内容もあり、昔とは違ったユニークな面白い卒業式であったと思います。今日は引き続きとなりますがよろしくお願いいたします。

【中村企画政策室長】

ありがとうございました。それでは議題に入りますが、松前町総合教育会議設置要綱第 6 条では、会議の公開を規定しており、本会議は公開するものとされております。なお、本日は傍聴者がいませんので御報告いたします。

それでは、松前町総合教育会議設置要綱第 4 条第 1 項の規定により、町長が議長となります。この後の会の進行は田中町長にお願いいたします。

【田中町長】

それでは議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。議事に入る前に、設置要綱第 7 条第 2 項の規定により、議長が、議事録に署名する構成員 2 名の指名を行います。それでは渡部委員と坪内委員の 2 名を指名させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは早速議題に入りたいと思いますので、事務局の説明をお願いいたします。

【住田教育委員会事務局長】

議案「第 3 次松前町教育大綱」について御説明申し上げます。

この教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 の規定に基づき、町長が教育基本法に規定する基本的な方針を参酌し、本町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について定めるものでございます。まず資料の 1 ページを御覧ください。本町の教育の振興について現在の社会情勢を踏まえて、町政に取り組む考え方とともに、教育文化の振興において目指す方向性について基本的な理念、考え方を述べております。本文を読み上げさせていただきます。

今、我が国は、本格的な人口減少時代を迎える中で、人々のライフスタイルや価値

観は複雑化・多様化し、経済や生活などあらゆる局面においてグローバル化やデジタル化等の動きが急激に加速するなど、これまで経験したことのない大きな社会変革期に直面しています。松前町においても、2040年には人口が25,000人まで減少し、高齢者の割合は40%を超えると予想されています。そうした中で、松前町の将来像を次のように描き、その実現を目指しています。

2040年の超高齢社会においても、誰もが自分らしく活躍でき、「ずっとこの町で暮らしたい」「この町に戻ってきたい」と願う町であるとともに、地域経済の活性化が進み、さらには安全・安心な暮らしと持続可能な社会が実現した「希望が生きる」「希望をかなえる」町になっています。

松前町に住む子どもたちが社会の担い手になった時、松前町の歴史や文化、地場産業、地域の絆などの地域資源を、これらの根底にある義農作兵衛のこころ「義農精神」や松前町への誇りと愛着を持って、次の世代に引き継いでいます。

このような松前町の将来像を実現するためには、現在のような変化が激しく将来の予測が困難な時代にあっても、不測の事態に動じることなく自らの発想と力で課題を乗り越え、地域社会の良き創り手として貢献できるたくましい子どもたちを育成することが必要であり、そのために教育が担うべき責任は極めて大きなものです。

このため、松前町は、「教育の町宣言」（昭和39年）の下、行政施策の基本を教育におき、町発展の基礎を築いてきた先人の教育に対する熱い思いを受け継ぎ、さらに発展させ、全ての人々の希望が育つ町の実現を目指します。

松前町では、こうした考え方に基づき、「第3次松前町教育大綱」を策定いたしました。松前町の子どもたちのため、学校現場で働く教職員のため、全ての松前町民の幸せのため、次の3つの目指す方向性と7つの振興方針を基に、教育の振興に取り組んでまいります。

価値観の多様化や、社会のグローバル化が進み、超高齢社会となる中であっても、この町で暮らしたい、戻ってきたいと思える、希望は生きる、かなえられる、歴史や文化、義農精神が、世代を超えて引き継がれる、そんな将来像の実現のため、全ての人々の希望が育つまちを目指して、教育の振興に取り組んで参ります。次のページを御覧ください。教育の振興に当たり、御覧の3つの目指す方向性と、7つの振興方針を掲げます。目指す方向性として、松前町は、教育のまちの推進に当たり、次の3つの方向から、それぞれの振興方針の具体化に取り組めます。

1つ目が、「子どもたちのために」。子どもたちに質の高い教育を提供し、夢を実現できる学力・技術力を保障します。

2つ目が、「教職員のために」。教職員の働きやすさと働きがいとを両立し、子どもたちの学びの充実につなげます。

3つ目が、「地域とともに」。地域との協働や企業・高等学校等との連携を強化し、多彩な教育を展開します。

これら3つの方向性から、御覧の7つの振興方針により具体化をします。これらの振興方針は、国の第四期教育振興基本計画を参酌して県が定めた、「第3期愛媛県教育振興に関する大綱」に定める振興方針に準じたものとしています。

次に、各振興方針について、目標と方針を御説明します。平易な文章で示しておりますので、読み上げをもって御説明とさせていただきます。次のページをお願いいたします。

振興方針1「未来を切り拓くたくましい子どもたちの育成」。目標として、一人ひとりの能力や適性に応じた学びを提供し、知・徳・体のバランスがとれ、たくましく生きる力を身に付けた子どもたちを育てます。

方針として、ICT（情報通信技術）を活用した理解度や個性に応じた学習と一人ひとりに応じたきめ細かな指導を実現し子どもたちの確かな学力の定着と向上を図るとともに、本格化するICT教育を充実させるため教職員や子どもたちのICTを活用する力（ICTリテラシー）の向上を図ります。

グローバル化に対応できる子どもたちを育成するため、豊かな語学力を着実に身に付けるとともに、国際的な視野を養う教育を推進します。

道徳教育や食事、運動など望ましい生活環境の確立により、子どもたちの豊かな人間性と健康、体力など社会でたくましく生きていく力を育てます。

また、義農作兵衛の利他を思う心「義農精神」を学び継承していくとともに、ふるさとを誇りに思う心を育み、地元で働くことの魅力を実感できるよう、職場体験学習などキャリア教育に取り組みます。次のページを御覧ください。

振興方針2「夢の実現に資する魅力あふれる学校づくり」。目標として、子どもたちが持つ能力を存分に発揮し、夢の実現に必要な学力・技術力を身に付けることができる魅力的な学びの場を確保します。

方針として、子どもたちが安心して快適に学び活動できる場所として、学校施設や設備の十分な整備を進めます。老朽化が進む校舎や設備の改修を進め、体育館等の空調設備の設置など子どもたちがより快適に過ごせる環境の整備についても検討します。

学校で日常化されているICTの活用に対応するため、基盤となるシステムや教育用ICT機器の更新・整備に取り組むとともに、快適に学習ができるようインターネットの通信環境の整備拡充を図ります。

また、各学校で地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、少子化が進む中、これからの町立小中学校のあり方について考えていきます。次のページを御覧ください。

振興方針3「一人ひとりを見つめる特別支援教育の充実」。目標として、障がいのある子どもたちが一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を受けながら、自立と社会参加に向け、安心して生き生きと学ぶことができる環境づくりを進めます。

方針として、障がいのある子どもたちが、一人ひとりの障がいの程度に応じた、適切で切れ目のない継続した支援を受けられるよう、学校と医師、福祉関係者など関係機関との連携を進めます。

また、教育相談や巡回相談の体制の充実・拡充を進め、学校や幼稚園で安心して自分にあった教育を受けられるよう学校生活支援員の充実を図るとともに、専門的な人材の配置などを進め特別支援教育の専門性の向上を図ります。

さらに、共に支え合う共生社会の実現を目指し、障がいのある子どもとない子どもが共に学び合う機会の創出を図るとともに、キャリア教育を推進し子どもたちの自立と社会参加を促進します。次のページをお願いいたします。

振興方針4「全ての子どもたちの自信を育み、安心して学べる環境の整備」。目標として、いじめや差別、虐待、貧困等の問題について、町民一人ひとりが主体的に考え、互いの人権を尊重しながら行動できる力を育てます。また、児童生徒が不登校となっ

た場合でも、安心して学べる体制を整備するとともに、学校の防災管理等による安全・安心な教育環境を整備します。

方針として、あらゆる差別、偏見を解消するため、「人権尊重の町」宣言の下、全ての町民が互いの人権を尊重する、差別のない明るく住みよいまちを目指し、人権・同和教育と人権啓発活動を進めます。

いじめや不登校などの未然防止、早期発見、速やかな解決のため相談体制の充実を図るとともに、増加する不登校児童生徒の支援のため、学校内外のサポートルームなど子どもの居場所や学習機会の確保を進め、誰一人取り残さない学習環境の整備を進めます。

警察、福祉機関などと連携し児童虐待やヤングケアラーなど学校生活の支障となる事情がある子どもへの支援を行うとともに、子どもの様々な問題を相談できる総合的な窓口の設置を検討します。

また、家庭や地域と連携し地域ぐるみで交通安全や学校安全の対策を進めるとともに、防災教育を通じて自らの命は自ら守る主体的態度を育成します。次のページをお願いいたします。

振興方針5「教職員の働きがいのある魅力的な職場づくり」。目標として、学校における働き方改革を進め、教職員がワークライフバランスを実現し、日々の生活や教職人生を豊かにすることができるとともに、教職員の資質・能力を向上させながら、子どもたちに向き合い、質の高い教育を提供します。

方針として、教職員が、誇りややりがいを持って安心して働くことができるよう、コンピューター上で試験を行うC B T（computer based testing）システム、学習支援ソフトウェア、統合型校務支援システムなどを活用した授業や校務のI C T化や事務の簡素化、部活動のあり方の見直しなどを進め、学校における働き方改革を進めます。

また、教職員の資質や能力を高め端末やソフトウェアを効果的に活用できるよう研修機会を確保し、教職員が専門的知識や能力を高め、多様で優れた教職員の確保を図ります。次のページをお願いします。

振興方針6「社会総がかりで取り組む教育の推進」。目標として、学校、家庭、地域が連携・協働し、社会総がかりで、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援します。

方針として、学校、家庭、地域が連携、協働して、子育て世代の負担を減らし共に子どもたちの健全な成長を支えられる体制づくりを進めるほか、地元の高等学校との連携・交流を図り、地域に愛着を持ち、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援します。

また、就学前教育を充実させるため、小中学校と幼稚園・認定こども園、保育所、児童館等児童福祉施設との連携や交流を進めます。

多世代が交流し子どもたちと関わるができる場の確保を進め、学校や家庭だけでなく地域全体で子どもを育てる社会を目指します。次のページをお願いいたします。

振興方針7「スポーツ・文化の振興と生涯学習の推進」。目標として、町民一人ひとりが、生涯にわたって身近にスポーツに親しみ、豊かな文化にふれあい、自発的に学び続けることができ、誇りと愛着を持てる地域づくりを進めます。

方針として、町民一人ひとりが生涯にわたり自発的に学び、スポーツ・文化芸術に

親しむことができる環境を整えるとともに、地域の集いの場を拡充するなど、活動の成果を地域社会に生かせる生涯学習社会の形成を目指します。

学校部活動の地域展開に併せて、スポーツ・文化芸術活動を様々な形で実施、継続していける場の確保を進めます。

また、貴重な地域の伝統文化や文化財の保存、整備、活用を進めるとともに、郷土を思う心の醸成や地域の活性化を図ります。

ホッケーのまちづくりをさらに推し進め、交流活動やホッケーイベントなどの開催により町民にホッケーの魅力を発信するとともに、「ホッケーのまち まさき」を県内外に発信していきます。

内容についての御説明は以上です。なお、この教育大綱の期間は令和7年度から令和9年度までとしております。以上で、第3次松前町教育大綱案の説明を終わります。

#### 【田中町長】

ありがとうございました。今回の第3次大綱が令和7年から令和9年までの3年度間の大綱となります。基本的には、振興方針が7つありますけれども、これが県の大綱を受けての内容の7項目で、次ページ以降に振興方針に基づいた具体的な目標と方針を設定しています。各振興方針の目標を達成するために、方針の中で具体的な内容を盛り込んだ状態で書かせていただいております。住田局長からもお話があったとおりの内容でございますけれども、例えば、1つ目の「未来を切り拓くたくましい子どもたちの育成」のところであれば、ICTリテラシーのところが結構重要になってくると思うので、最近SNS上での誹謗中傷を皆さんよく聞かれると思うんですけども、私は一番懸念してるのは、そのために規制しすぎると子どもの能力を阻害することになります。SNSやインターネットを使いこなすことは、これから重要な技術になってくるので、どうやって子どもたちにその向き合い方を教えていくのかというのが、とても大事であると思います。様々な学術研究書を見ても、ICTであるとかSNSを使いこなす子の方が、能力的に高いということもありますので、上手く使いこなせば、人間の能力はまだ高められるんだろうなと思います。ICTについては、近年AIの活用も進んでいますので、個々の学習にAIをどう活用していくかこれから大事になってくると思います。

また、グローバル化のところで少し書かせていただいておりますけれども、具体的にどうやって進めていくかというのは、教育長ともよく御相談させていただいているところです。今、3人の方がALTとして配置をされていますが、もう少し増員してもいいのかなという話もしているので、国の普通交付税措置を調べながら予算面も考慮して、ALTを6人に増やすなどできたら、よりグローバルな英語教育っていうのができるようになるんじゃないかなと思っています。

あと2つ目の「夢の実現に資する魅力あふれる学校づくり」ですが、今、教室は全て空調が入ってるんですけど、まだ体育館には入ってないというところで、何とか早めに対応したいと思っています。体育館の空調は子どもたちだけではなくて、災害時に避難所となりますので、そういった面からも空調の整備を早目に進めたほうがいいだろうということで、国庫補助を使いながら早期に実現させたいなということで具体的に書かせていただくことにしました。

3点目「一人ひとりを見つめる特別支援教育の充実」について、学校生活支援員の方は、令和7年度から増員する予定で予算を取っておりますので、今よりも少し学校

生活支援員の方々の負担も軽減しながら充実させていけるのではないかと思います。

4点目「全ての子どもたちの自信を育み、安心して学べる環境の整備」ですが、総合的に相談できる窓口を古城幼稚園の跡地に設置したいということである程度具体的に書かせていただいているんですけども、不登校の長期欠席の子どもたちの居場所や、複雑な家庭環境、様々な問題を抱える子どもたちの相談も、ここで包括的に受けれるような窓口をその跡地の中につくれたらいいんじゃないかなということで、令和7年度から、いろんな有識者の方、地域の方、お父さんお母さんなどと一緒に、実際に子どもの声を聞きながら考えてみたいと思っております。

6点目「社会総がかりで取り組む教育の推進」についてですが、まち・ひと・しごと創生推進会議において、小学校に上がる前の幼保小連携が一部のみで、全ての子どもたちにできていない点をできるだけ早く実現させてほしいと有識者から指摘もありましたので、就学前教育を充実させるためのところに書かせていただいているんですけども、できるだけ全ての小学校に上がる前の子どもたちに、小学校との交流ができるようにしていきたいなというふうに思っております。

7点目「スポーツ・文化の振興と生涯学習の推進」について、部活動の地域移行について書かせていただけてますが、具体的にはまだこれからというところで、今教育委員会の方で、各校区に説明会を1回ずつ開いて様々な意見をいただいているところです。部活動というのが学校から地域に移行していくということになりますが、文科省の方も、どこかの年度で変えなさいという方針ではなくなっています。松前町の方針としては7年度から11年度までにかけて、地域クラブのウエイトを徐々に高めて令和11年度までにできるだけ移行させていくようなイメージで今計画が進んでいるところがございます。これに関してもまだ、7年度から進んでいくものになるので具体化に向けて、これから考えることが多いとは思いますが。部活動があって当たり前の世代からすると、マイナスの御意見もいただくこともあります。先生が楽しようとしているんじゃないかとか、そういう視点になってしまう方もいますが、ただそれは、認識の共有ができていないのかなと個人的には思っています。実際に子どもも減って先生も減っていくのが見えてきて、当然働き方改革というところの切り口もあるんですけど、何で今じゃあそれが問題となっているのかということをお伝えして、地域移行をやっていけるような体制と、皆さんの理解を得ながら進めていきたいと考えております。

長くなりましたが、説明は以上となります。せっかくの機会ですので、忌憚のない御意見、御質問等いただけたらと思います。よろしくお願いします。

#### 【渡部教育委員】

松前町で課題になっているものは全て網羅し、前向きに取り上げていただいているありがたいなと思っております。特に、不登校対策が非常に大きな問題になっています。古城幼稚園の跡地の活用ということで、以前から教育委員会でもいろいろ議論をしてきましたが、これを前向きに進めれば本当にありがたいなと思っております。

#### 【田中町長】

あり方検討会の中に設計の知識がある建築士の方も一緒に入ってもらって、この壁は構造的に除去可能かどうかなど専門的な知見でも見てもらおうかなと思っていますし、レイアウトをみんなで考えられたらいいなと思っております。

【渡部教育委員】

様々な方の御意見、活用方法を聞きながら進めることで、新たな見方が出てくると思います。また、多世代との交流を入れたほうがいいのかどうかという点についても専門的な御意見が聞ければいいんじゃないかなと思います。

先日、広島県にある同様の施設を視察した際、学校に戻すという考えは全くないという施設だったんです。これもありかなとは思いますが、私たち皆、ちょっと疑問を持ちながら帰ったんですよ。

【田中町長】

フリースクールのイメージですかね。

【渡部教育委員】

県の施設だから、それもありなのかなと、各市町にはそれぞれセンターがあるらしいので。

【田中町長】

学校に戻ることが全てではないとは思いますが。割とフリースクールはそういう施設方針のところが多いかなと思います。とりあえず場所だけ与えて、自分たちで好きなこととしていいのが多分フリースクールなのでそちらに近いのかなと。

【坪内教育委員】

いろんなことを網羅して前向きに考えてくださっていることすごくありがたいです。私が一番気になっているのは不登校対策、二番目が教育現場の施設の整備です。施設については、現場を回ってみますと、本当に現場の先生方は我慢しているところがある。直して欲しいのに、何年も申請しても直らない。それはすごく私もどかしく感じるんですけども、予算も限りがありますし、教育委員会も、皆さんも一生懸命考えて、何を一番に営繕に取り組むかなど本当に真剣に考えてくださっているのは分かるんですけども、ここまで現場は頑張って我慢している。これからまだまだ環境整備の要望は出てくると思いますが、1つ1つ、私たちも真摯に受けとめて、予算も考慮していただいて進められたらいいなというのが、2つ目の私の希望です。

1つ目の不登校についても年々増えていて、低年齢化しているそうです。それはすごく気になります。家でどのように暮らしてるのか想像したときに、保護者が本当に付いていることができるのか、はたまた、両親ともに働きに出て、家にいることしかできない状態なのか。広島では家から出れる子たちを対象に受け入れる形だったんですけども、私は松前町はそれではいけないと。家に閉じこもりがちな子どもたちにも働きかけて、専門的な分野の方やボランティアの方でもいいんですけども、人間関係を保護者と作って、そしてその子どもたちと繋がりを持って、少し心をほぐしていく、そういう取組もしないと、家から出れる子だけを対象にしていたのでは、やっぱり私はいけないんじゃないかなというふうに、先日見学させてもらった際に思いました。その2点、今強く私は思っています。

【田中町長】

おっしゃる通りだと思います。施設の整備については申し訳ないところはたくさんあるので、できるだけ教育の方の予算を確保して、子どもたちと先生たちが我慢せず、また、先生たちが直したりしないでいいように頑張って参ります。

不登校については、家から出られない子どもたちのアプローチも必要だと思っています。フリースクール的なところだと、どうしても義務教育までで、その後がないイ

メージがあるんですけど、せっかく作るのであれば、高校生の子たちも来れるような場所にしてあげたほうが私はいいのかなと思うんです。何年かかるかわからないんですけど、でもその義務教育後の子たちもちゃんとケアができたほうがいいと思うので、フリースクールはフリースクールでいいと思うんですけど、どちらかというと、放任の色が強いのが気になるころではあるんです。坪内委員がおっしゃるように、家から出られない子にもちゃんとアプローチをしていったほうがいいと私は思っていますので、実際にあり方検討会の中で有識者にも入っていただけたらと。また、昔と違って休む理由がよくわからない子が増えているというのは本当に対応が難しいところかなと思います。不登校の数が増えているのも気になるころです。

【坪内教育委員】

保護者も相当悩んでいると思います。今度作ってくださる施設は保護者の相談機関にもなると思うんですけど、保護者がこの施設だったら子どもたちと一緒にちょっと見にきてもいいかなとか、子どもたちを誘って、この施設で過ごさせたいなとか、やっぱりまずは保護者に働きかける。そして保護者の悩みを聞いてあげる。そういう施設、取組がまず必要なのかなというふうに思います。

【田中町長】

分かりました。ありがとうございます。

【郷田教育委員】

今回の大綱について、ぶれてないなという印象が第一です。つまり、しっかり長期展望に立って施策を講じられているなと力強い印象を受けました。お金はかかるんですけども、それをクリアしていくように具体的に述べられているということ。

それから、これは提言になるかもわかりませんが、本町のひとり親世帯や離婚率のパーセンテージが気になります。これらは不登校の数とかなりリンクしているのではないかと思います。結局、子どもへの愛情が不足して不登校にもなるだろうし、場合によっては家庭のいろんな仕事を子どもたちが引き受けないといけないんですよね。もう勉強どころではないし、意欲も落ちてくると思います。生活がしんどくなって、家庭環境が悪くなると子どもの心をむしばんでいくんでしょうね。その点もちょっと気になるころです。さらに付け加えれば、子どもたちに将来働かないといけないという視点を植えつける必要があると思うんですよ。勉強の目的が分からなくなる。ドイツは10歳で大学に行く子や働く子がいて、それなりの教育を進めている。そういう視点が日本も必要になってきているんじゃないかと。みんな同じように進んでいくのではなくて。ファンタジーの世界と現実の違いは違いますからね。だから日本の教育はファンタジーを追いすぎたんじゃないかなろうかと。みんな仲良く理想に向かっていくなんてそんなもんじゃないんですよね現実。現実はどうやって生きていかないといけないか、もっと現実を子どもたちに知らせる時期かなと思うんですよ。それが分かっていると、いくら英語や数学を勉強したってだめだと。やはり自分が生きていく基盤を心の中に持てば、多少前向きに取り組んだり、夢や希望が持てるかなと思うんですね。だから今の教育はその希望を持たず教育になっているかどうか。これは教育の基本論になるかもわかりませんが、大事に我々は見ていかないといけないなと思っています。

【田中町長】

ありがとうございます。1点目の家庭環境の相関関係という、これは調べてみてもいいかもしれません。

【郷田教育委員】

各家庭に手を入れた方が、不登校を減少させるヒントになるかもしれないですね。外から見ただけでは解決ができないと思うんですよ。家庭の状況が大きく影響していると思うんです。ひとり親が悪いわけじゃないですよ。ひとり親が増えているのも事実ですし、離婚率が増えているのも事実ですし、ヤングケアラーが増えたのも事実なんです。だからそこを解決しないことには、ひきこもりや不登校は解決にならないだろうと。難しいですけどね。

【田中町長】

難しいですよ。離婚とかひとり親家庭になるのは、それは仕方がないこと。ひとり親家庭に対してどういう支援が要るのかとか、そういうところになってくる。

【郷田教育委員】

どんどん右肩上がりに増えていくのを放置はしてないんだとしても、根本を断つ方策をとらないことには右肩上がりに増えていって、不登校の子が増える日本になると苦しいですね。

【田中町長】

そうですね。結局そこが2点目の働くことっていうのと繋がると思うんですけど、学校に来なくなると、一生もしかしたらひきこもるだろうし、年齢だけは1年1年とっていくけど、20歳、21歳になったときに、社会に出て本当にうまく働く人とコミュニケーションをとって働くことができるかという、相当難しくなるんじゃないかなと。

【郷田教育委員】

年が経つほど難しくなります。

【田中町長】

早いうちに学校じゃなくても社会とは繋がるっていうのを身につけさせる、コミュニケーションをとるということ、拒否しているのか嫌なのか分からないですけど、そこをどうにか解きほぐすようなことをしていかないと本当に危ないと思います。松前の子どもたちだけじゃなくて、日本という国全体が、頑張る子たちだけに全部仕事が行ってしまって、今もそれはありますけど、結構これって怖いことじゃないかなと思いますね。もちろん寄り添うことも大事ですが、やっぱり寄り添いながらも徐々に社会の繋がりを戻すという方向にできたらやりたい。文科省はあまり最近は無理じゃなくていい、寄り添いなさいという方針ですけど、そっちにばかり行くと、それは危ないんじゃないかと個人的には思います。

【郷田教育委員】

たくましい子ども、頑張る子どもが増えないことには日本の国は強くないですよ。そこでがんばらないと、ますます落ち込んでいきますよね。そのためには松前を愛する人間を作らないといけないですよ。

【田中町長】

それが学校の子が強くなるひとつかもしれないですね。

【郷田教育委員】

やっぱり、自分の町を大事にせずに東京にばかり行ったのではいけないですね。人が減る理由はそこでしょう。自分の町よりもお金があるところに行くんだというんですから。そうするとその地域は将来がなくなり消滅するんですよ。だから、それを食

い止めると言ったら、やっぱり松前ナンバーワンじゃないといけませんよ。

【田中町長】

最終的にはやっぱり大人になったときに、ここにいたいとか帰ってきたいと思えるような魅力をまたもうひとつ作っていかないと、職場もそうですけど。

【郷田教育委員】

一番大事なことは職場をふやすことですね。

【田中町長】

女性が働きたいと思うような環境の職場を民と一緒に作っていくのが大事ですね。県も今力を入れていて、ひめボス宣言の取得を目指したりしていますけど、それも大事なんだろうなと。女性が出ていく一つの原因になるのが、ホワイトな企業が都会に多いというところらしい。女性のキャリアが断絶されなかったり、わかりやすいところで言うと、まだまだ地方は小1の壁と言われますけど、子どもが小1になった途端にフルタイムで働いてくださいというような会社がほとんどだと思うんですけど、これが小3まで時短勤務を認めますよというところもあったりする。働きたいという意欲を持ってるのに企業側が合わしてくれないと、もうキャリア断絶ですよ。なかなか家庭で子どもを見ながらというのが難しくなるのは、大きな要因なんだろうし、それが愛媛じゃなくて都会の方が多から、多分選ぶ人も多いんじゃないかなと思いますね。やっぱり仕事もしたいっていう人も今多いですから。女性の人にも社会参画してもらって活躍してもらわないと。もう、男性だけではとても回る世の中になっていないので、マンパワーも全然足りてない。やっぱりそこは官民で、官もそうならないといけませんけど、民間企業にまたそういうひめボス宣言であるとか、みんなで若い人の流出を止めようという動きも大事だと思います。

松前は本当に場所はいいですからね。こんなに恵まれた平野部はないので。ここを開放すれば本当にいろんな絵が描けると思うんですけどね。広島なんかには負けないと思うので、もっともっと強い松山平野ってつくれると思うんですけどね。

【郷田教育委員】

条件が一番いいんですよここは。人口密度だけで言うと、広島市や仙台市、札幌市より松前は多いんですよ。だから、その有利さを活かさない。松前は企業の誘致にもいいと思う。

【田中町長】

そうですね。進出したいっていう企業は多いですからね。土地はあるんですが、なかなか農地との絡みがあるので。

【郷田教育委員】

そうですね。道路など交通基盤整備さえすれば、そこらが解決するかなと思うんですけどね。

【渡部教育委員】

その農地を持っている方が、徐々に農業をしなくなっている。

【田中町長】

農業のあり方も同時に考えないといけません。また、本当はもっと土地を有効活用したいと思います。ニーズも高いので。

【郷田教育委員】

水はあるし平野であるし、交通網が空港は近いし高速道路も近いし、揃ってるんで

すよ。だから、これを発展させない理由はないですね。発展させるべき。町から市にするとか夢が描けたらいいなと思いますよね。人口減少に逆行して。

【渡部教育委員】

発展要素は抜群にあると思います。それを活かせるようにしてくれればいいんですけど。

【田中町長】

貴重な御意見・御提言ありがとうございます。

【廣藤教育委員】

振興方針の1つ目のところで、町長さんがおっしゃられてたように、ICTリテラシーのところは保護者としても重要なことかなと。今、コンピューターとかインターネットのスキルに加えて、情報モラル的な教育がすごい大事になってきてるんじゃないかなと思っています。

学校の中での問題を子どもから聞くと、SNSの中で子ども同士がもめごとじゃないですけど、そういうものが起こってるのは事実なので、情報モラル的なところがすごく重要になってくるんじゃないかなと思っています。上の中学生の息子が、実はまだ携帯電話も持たせてなくて、息子が言うにはクラスで自分以外全員携帯を持っていると。持ちたいという気持ちはありながらもやっぱりもめごとが結構その中で起きてるっていうのも、息子自身も知っているようで、今は息子なりに、多分お友達を静観しているという感じの状況で。まだ子どもですから、そういうところの教育ってすごい大事になるのかなと思います。下の小学生の子は、学校で配布されているパソコンにすごい興味があって、何でもそれで検索したり、ブラインドタッチの練習をしたり、そういうこともすごい大事だなと思うんですね。やっぱりそういうものに興味がある子っていうのは、もちろん携帯電話にも絶対に興味があるし、それをいつから持たせたらいいかなと保護者ながらに悩んでるところなんですけど、そういう教育がすごい大事になってくるなと個人的には思います。

それと4番目の教育支援センター関係の話で、先ほどお話があったように、広島へ見学に行ったときに、外に出られる子が対象でありながら、チャット形式で、家にいる子とセンターと繋いで、ラジオ的な感じで同じ時間を共有してやってるのを見せていただいたんですけど、インターネット環境がある子は家からでもできると思いますし、1人1台の端末があるので、そういうのを利用して家から出られない子と、松前町にできる支援センターが繋がって元気にしてるかどうかだけでも確認できるようなツールみたいなものが必要じゃないかなと思います。携帯を持たせないとかそういう心配もありながら、やっぱり便利に活用できる場所もすごいあると思うので、そういうところの整備も含めて、子どもたちにモラルの教育も含めて、進めて欲しいなと個人的には思います。

【坪内教育委員】

そのためにはやっぱり専門的な技術を持った方々が必要かと。広島は県で15人の指導主事さんがいたんですよ。その人たちがそれぞれの特性に応じた子どもたちとの関わりをしてたんですけども、やっぱり人材がいないと、なかなか実現が難しい。そういうところがあると思うので、そういう人材も確保が必要かと。

【渡部教育委員】

広島は大学生のボランティアなどがやっているようですね。

【田中町長】

皆さん貴重な御意見をありがとうございました。その他皆さんよろしいでしょうか。

【足立教育長】

はい。ありがとうございます。

【田中町長】

それでは、貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。また引き続きよろしくお願いします。それでは進行をお返しします。

【中村企画政策室長】

皆様、本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。本会議の結果につきましては、改めて議事録を作成し、議長から御指名のありました2名の委員様の御署名を案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度第2回松前町教育会議を終了いたします。ありがとうございました。